

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Smoking exposure is associated with serum vitamin D deficiency in children: evidence from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

1歳半時点の子どもの受動喫煙と、2歳時点の子どもの血清ビタミン D (25(OH)D)値の関連

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Nutrients

年: 2022 DOI: 10.3390/nu14153121

筆頭著者名: 羊 利敏

所属 UC 名: メディカルサポートセンター

目的:

本研究では、子どもの1.5歳時点の受動喫煙と2歳時点の血清25(OH)D測定値との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査参加者のうち、詳細調査の参加者を対象とし、1.5歳時点の受動喫煙データと2歳時点の血清25(OH)D測定値データを用いて解析を行った。子どもの受動喫煙の情報は、父母の喫煙状況により判断した。血清25(OH)D値が20ng/mL未満の場合、ビタミンD不足と定義した。ロジスティック回帰分析を用いて受動喫煙とビタミンD不足の関連について多変量解析を行った。

結果:

エコチル調査参加者のうち詳細調査に協力いただいた計4593人の子どものデータを解析した。多変量解析の結果により、1.5歳時点の受動喫煙は、2歳時のビタミンD不足に関連していた(調整後オッズ比1.35、95%信頼区間1.14-1.59)。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果から、受動喫煙は子どものビタミン不足の危険因子であることが示唆された。研究の限界としては、1)子どもの受動喫煙データは質問票から得られた情報であり、2)血清25(OH)Dの測定回数は一回だけだった点、3)統計モデルには他の重要な交絡因子を含められなかった点等が挙げられる。

結論:

本研究において、1.5歳時点の受動喫煙は2歳時のビタミンD不足と関連することが明らかになった。